２学期末保護者会　校長の話

　2学期もあと2週間で終わろうとしています。

この2学期は、1年生にとっては中学生としての自覚の芽生えるとき、2年生は中だるみと戦う時、3年生にとっては、集大成と進路選択の時でした。1年生は3年生と言う圧倒的存在感を目標とし、合唱コンクールでは3年生に少しでも追いつきたいと、久寺家中生としての意識が芽生えてきました。2年生は一般的に中だるみの学年と言われますが、目標をしっかり持ち、3年生からすべてのバトンを受け継ぎ、学校の中心となって動き始めています。3年生はさすが3年生！最高学年にふさわしい取り組みで、たくさんの感動と、新たな久寺家中学校の歴史を作ってくれました。

　勉強も定期的に授業見学をさせてもらいましたが、どの学年も良く学習し、全国学力学習状況調査でも全国平均を上回っています。

　また、筑波大との連携事業も定着してきたようです。成果かどうかはわかりませんが、すべての部活動で市内大会優勝以上の好成績で、今までは本番に弱い久寺家中でしたが、今年は先日の野球部の市内大会優勝のように、逆転で優勝するなど、ここ一番で力が発揮されています。

　また、2学期は生徒同士のトラブルが多い学期ですが、今学期は大きなトラブルはほとんどありませんでした。

　このように、今久寺家中は、すべてにおいて歯車が回り、本当に素晴らしい学校です。こんなに素晴らしい学校は、千葉県内にいくつあるでしょうか？

さて、**「木を見て森を見ず」**と言うことわざがあります。これは、**「物事の一部分や細部に気を取られて、全体を見失うこと。」**と言う意味です。今の久寺家中は「木を見て森を見ず」という事も大切ですが、「森を見て木を見ず」という事を忘れてはならないと感じています。全体としては本当に素晴らしいですが、個々一人一人に目を向けると、悩んでいる生徒、学習や生活面で支援が必要な生徒もいます。一つひとつの木をどのように育て、森を作っていくかがこれからの課題です。

　では、どのように生徒１人ひとりを育てて行けばよいのでしょうか。今はものが豊かで、私が育った時とは環境が違います。私が子供の時は、物が少なかったため、「物を大切に使いなさい！残さず食べなさい！」と育てられました。しかし今はどうでしょう？洋服が汚れたり、切れたりしたら買い替える家庭も多いのではないでしょうか？

　豊かな時代の子育てをどのようにしたら良いのかを、私たちと一緒に考えて行かなくてはなりません。

たとえば、終業式に通知表を持って帰って来ます。その時に皆さんはどんな声掛けをしますか？昔ある幼稚園で「絵を上手に描く」ことでこんな実験がありました。クラスを２つのグループに分け、一つはお菓子グループ、もう一つはほめてアドバイスグループ。お菓子グループは、頑張ったご褒美にお菓子をあげ、次はどんなお菓子がいい？と聞いて、毎日おかしをあげました。ほめるグループは、毎日頑張ったところを褒めて、次のアドバイスをします。これを続けます。結果は、最初の１週間はお菓子グループのモチベーションが高く、絵を描き続けました。ほめるグループは、お菓子グループがうらやましく、なかなかモチベーションが上がりませんでした。結果は２週間目に入ったころから、お菓子グループは飽きる子供が増え、最後は絵を書かないで遊んでしまいました。ほめるグループはほめてほしくて次のアドバイスを毎日聞きに来ます。ご褒美でモチベーションを上げるのは、物が豊かな時代には当然の方法かもしれません。しかし、大切なことは、子供の内面は、昔も今も変わらないという事です。

あと３週間で２０１６年も終わります。毎年今年こそは！と思いながら「陽　暮れて道なお遠し」の思いが１年を終わるころになると胸の中を駆け巡ります。私の明日は「昨日の今日、今日の明日」ですが、子供の明日は「２０年、３０年先の未来のある明日」です。

　実りのある「行く年来る年」にしたいものです。

　　　　　　　　　※原稿と多少違う言い方をしているところもありますのでご了承ください。